

3. 角倉了以立像

◇基本情報

所在地：京都市右京区嵯峨亀ノ尾町
(京都府立嵐山公園内)

建立年：1912年

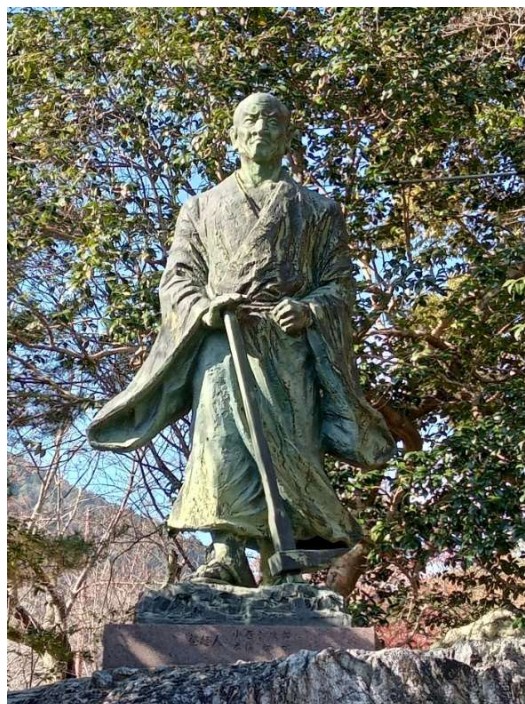
建立者：了以会

寸法：高 120cm×幅 190cm×奥行 30cm

第二次大戦時に金属供出のため撤去

再建年：1988年5月28日

再建者：有志



角倉了以立像

◇概要

小倉山の東南に位置する京都府立嵐山公園は、1910年（明治43年）に整備された府立公園で、園内を登り切った高台に「亀山天皇陵」があることから亀山公園と呼ばれ親しまれている。この公園内に角倉了以翁の銅像がある。

この嵐山の地にあって眼下の大堰川（保津川）を開削、続いて高瀬川を開削するなど江戸時代より京都の産業振興に多大なる貢献をした「京都の恩人」として建立されている。この銅像は「大悲閣千光寺」にある了以の木像とは異なり、しっかり立ち上がって眼下の大堰川（保津川）を見下ろしている。手には開削事業の象徴、ツルハシを握っている。

◇歴史

1606年（慶長11年）に角倉了以が大堰川の舟運を開いてから約300年後の1902年（明治35年）に、了以の功績を顕彰する了以会が結成された。当初は了以を祭神とする神社建立を企画したが挫折、その後、1907年の贈位（正五位）を機に銅像建設が薦められた。大悲閣に安置されている了以翁の木製坐像をもとに、立ち姿にして造り、1912年（大正元年）、角倉了以を記念し、大堰川に臨むこの地に銅像が建立された。

なお、銅像は第二次世界大戦中の金属供出で撤去されたが、1988年（昭和63年）5月28日に有志により再建されている。

◇参考資料

・京都市ホームページ：角倉了以像副碑，UK131